特　集

安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人 なかよしクラブみずほ
＜岐阜県瑞穂市＞

日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、事業受託・会費の設定を工夫するなど、財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。

1. 5年後10年後の目標ロードマップを作成し黒字化目指す
2. 子ども向け運動教室の出前講座で実績作り→市と年間契約
3. 施設利用料、謝金に最低施行人数を加味して会費を設定

1 クラブ概要

平成18年夏にクラブの設立準備が始まり、社会教育主事の先生を中心にスポーツ少年団の関係者、体育指導員、地域の社会体育団体代表者の方などが何回も検討事項を調整し平成20年に本活動が始まりました。設立までは社会教育主事の先生にお力を借り、当時お願いしたスポーツ教室の講師陣もほとんどが現在も変わらず指導者です。本業をこなしながらクラブの相撲教室の指導も担うという前理事長の牽引力、動員力は現役員たちも多くを学ばせてもらっています。

『健康で長生き』をするために青少年も成人も高齢者も仲良く育み合うクラブとして2008年9種目14教室から始まりました。そして、2012年開催のぎふ清流国体でキッズダンスを踊れるチームを作ろうとキッズダンス教室を生徒16人で始めました。その教室はあっという間に70名を超えるメンバーになり、予選を経て長良川のメインスタジアムでミナモダンスを踊ることができ、クラブで1、2を争う人気教室となりました。ぎふ清流国体では、瑞穂市はボウリング会場でしたが、国体の前年からプレ大会が開催され、その折にもキッズダンスのパフォーマンスを市から依頼されました。本番の年はもちろん、成人式や地元の祭りやフェスティバルなどにも声が掛かり、子どもたちも沢山の経験を積むことができました。クラブとしても瑞穂市との協働をさせてもらいキャリアと信頼関係を構築していくことにつながりました。

現在常設教室は一週間16種目27教室。教室運営による事業収益は財源に対して54%で、その他に受託事業費が32%です。活動状況としては、子ども向け教室の成長が目覚ましく年々参加者が増加しクラス数を増やしたりして対応しています。

また、地域に発信するために、盆踊り大会・キャンドルナイト(8月)、地域のふれあいフェスタ(11月)、GKDダンスフェスティバル(12月)、市民体力測定会(2月)の4つのイベントを行っています。広く近隣住民の皆さんに活動をPRし、クラブへの参加呼びかけを続けています。

2 財務計画・会費設定上の注意事項と工夫

大きく10年後に在りたいクラブの目標を立て、その間前半5年間と後半5年間の活動予測をしながら、理事長・クラブマネジャーが中心となり、クラブのロードマップを作りました。そのマップをベースに5年後に目標を達成するために今年は何をするべきかを考えながら、年間の教室運営、イベント事業、バス事業、市との協働事業のバランスや見積もり、成長予測を立てるようにしています。

その中において各教室運営の黒字達成は必須事項として取り組んでいます。参加人数不足の場合は、市の広報誌である「広報みずほ」のクラブの情報掲載スペースに教室案内を再度掲載したり、ポスターを作成して公民館やコミュニティーセンターへ掲示したり、講師による声かけなど広報活動に力を入れることにより参加人数を確実に安定するようにしています。

受託事業については幼児支援課に相談させていただき市内9つの幼・保育園に運動教室の出前講座を実施し、市と園の目的を共有しながら実績を作りました。その後、保育士の方々からも熱心なオファーを市にしていただき、正式に年間を通して巡回教室を契約する運びとなりました。また、その教室は常設のキッズ運動教室としてクラブでも毎週行われていて大人気の教室となっています。

会費の設定は、高齢者のクラスは極力リーズナブルに設定できるよう注意を払いますが、施設利用料、謝金などのほか最低施行人数も加味して算出します。新設教室を開設する際には体験教室を常設同様に開いて市民のニーズと合っているか調査し、開講可能かをシミュレーションし、最低施行人数を賄うことができるかを確認します。また、受益者負担であることを説明の上、妥当な会費を設定するよう注意しています。ただ、体験会に参加しても実際の教室には参加しないケースもあり、人数不足による運営費の圧迫が起こる時は急遽追加チラシを作成して再募集することもあります。逆に予定を超える参加者の時は教室を増やして対応したり、それでも足りない場合はキャンセル待ちとします。

また、クラブの運営状況を確認するために、執行役員会(毎月1回)、教室部会、教室部長・クラブマネジャー間の話し合い、社員会(年4回)の各場においても、教室運営状況等について意見交換しています。

3 財源確保で意識と処理能力が向上

事業による財源の確保は、新規事業取り組みに対するモチベーションのアップやクラブ職員の増員が可能になり、それにより事務局の処理能力が上がるという効果も生まれ、より良い活動につなげることができます。

4 理念とポイント

財源確保のために自主事業の安定化（人気の教室はとことん伸ばす）を図るとともに、地域住民の求めるものは何か、楽しいことは何かを会員との会話を通じていつも観察するようにしながら、タイミングを外さないで動くようにしています。

5 今後の課題・展望

高齢者向けの教室がマンネリ化しているので新しい取り組みをして新規会員を増やす工夫が必要と考えます。また、totoバス活用事業を展開し市民に貢献できる活動をクラブの財源の一つにしたい。

（NPO法人なかよしクラブみずほ　クラブマネジャー　小森姿磨子）

クラブ プロフィール

設立年月日　平成20年3月8日

所在地　岐阜県瑞穂市宮田300番地1

運　営　会員数600名（平成27年4月現在）予算規模2,200万円（平成29年度）

有給職員　6名

特　徴　瑞穂市は、濃尾平野の北西に位置し人口53,000人、面積は28㎢です。クラブ事務局が市役所分庁舎隣の公民館内にあるので市役所との打ち合わせなど連携が取りやすいですが、市役所職員と間違われることも多々あります。夏の盆踊り大会は地域住民を巻き込んで来場者、出店者共に少しずつ増え、お盆中だからこそ会えるコミュニケーションの場作りを目指しています。一昨年からはキャンドルナイトも並行して開催しています。クラブの事業は教室運営によって支えられていると言っても過言ではありません。

連絡先　〒501-0305　岐阜県瑞穂市宮田300-1
電話番号 058-328-3825（FAX 同）
E-Mail　info@ncmizuho.com
URL　http://ncmizuho.com